

石川・千木^{せぎ}ヤシキダ遺跡

- 1 所在地 石川県金沢市千木一丁目・疋田三丁目
- 2 調査期間 第三次調査 一九八九年(平1)九月～一二月
- 3 発掘機関 金沢市教育委員会
- 4 調査担当者 出越茂和
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 古墳時代～中世
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

千木ヤシキダ遺跡は、金腐川右岸に位置する古墳時代から中世にかけての複合遺跡で、これまでに行なわれた発掘調査は四次に及ぶ。



第三次調査における主な
検出遺構には、平安時代の
大型の両面廂付き掘立柱建
物を中心に、井戸・堀・地
鎮遺構などがある。地鎮遺
構には、計七七枚の皇朝銭
が使用されており、特筆さ
れる。

今回紹介する木簡は木扇

の断片で、大型建物に付随する SEO二から一点出土した。SEO二は、上段が蒸籠組み、下段が縦板組隅柱横棧留めの二段構造の井側をもち、底に炭・小石・粗砂からなる浄水機能が付加された特殊な井戸である。井戸は廃棄される時に、板を四角形に組む一辺一六 cm 程の枠を中央に埋め込み、木製祭祀具として人形・刀形・斎串を周辺に納めている。なお、墨書土器は遺跡全体で九五点を数え、「魚」が多い。SEO二から出土したものとしては、「本」「東」「万」などがある。

8 木簡の釈文・内容

[illegible]

スギ材の扇骨に墨書されている。下端は半円形に仕上げられており、直径2mmの孔をもつ。扇面経もしくは転用木簡の可能性が考えられる。

9
関係文献

金沢市教育委員会・金沢市疋田第二土地区画整理組合『金沢市千木ヤシキダ遺跡Ⅱ』（金沢市文化財紀要八六、一九九一年）

(出越茂和)

